

令和6年度(2024年度)

熊本県  
農業研究センター一年報

熊本県農業研究センター

令和8年(2026年)3月

# 令和6年度（2024年度）熊本県農業研究センター年報

## 目次

### I 一般報告

1 組織の概要	
(1) 組織と所在地 .....	1
(2) 主な業務内容 .....	2
2 土地・建物	
(1) 土地 .....	3
(2) 建物 .....	3
3 令和6年度最終予算	
(1) 最終予算及び財源内訳 .....	4
(2) 試験研究費最終予算 .....	6
4 職員数 .....	7
5 品種登録・特許取得等	
(1) 品種登録 .....	8
(2) 特許 .....	9
(3) 海外への品種登録 .....	10
6 研修受入れ .....	11
7 視察・見学者 .....	12

### II 試験研究概要等

1 試験研究基本方針 .....	14
2 大学との連携関係状況等 .....	15
3 普及に移した成果	
(1) 農業の新しい技術 .....	16
(2) 令和6年度(2024年度)農業研究成果情報一覧表 .....	18
4 広報	
(1) マスメディアを活用した広報 .....	22
(2) ホームページの活用 .....	24
(3) 主なイベント参加等 .....	24
(4) 季刊誌（農研NOW）による広報 .....	24
(5) ソーシャルメディアの活用 .....	25

# I 一般報告

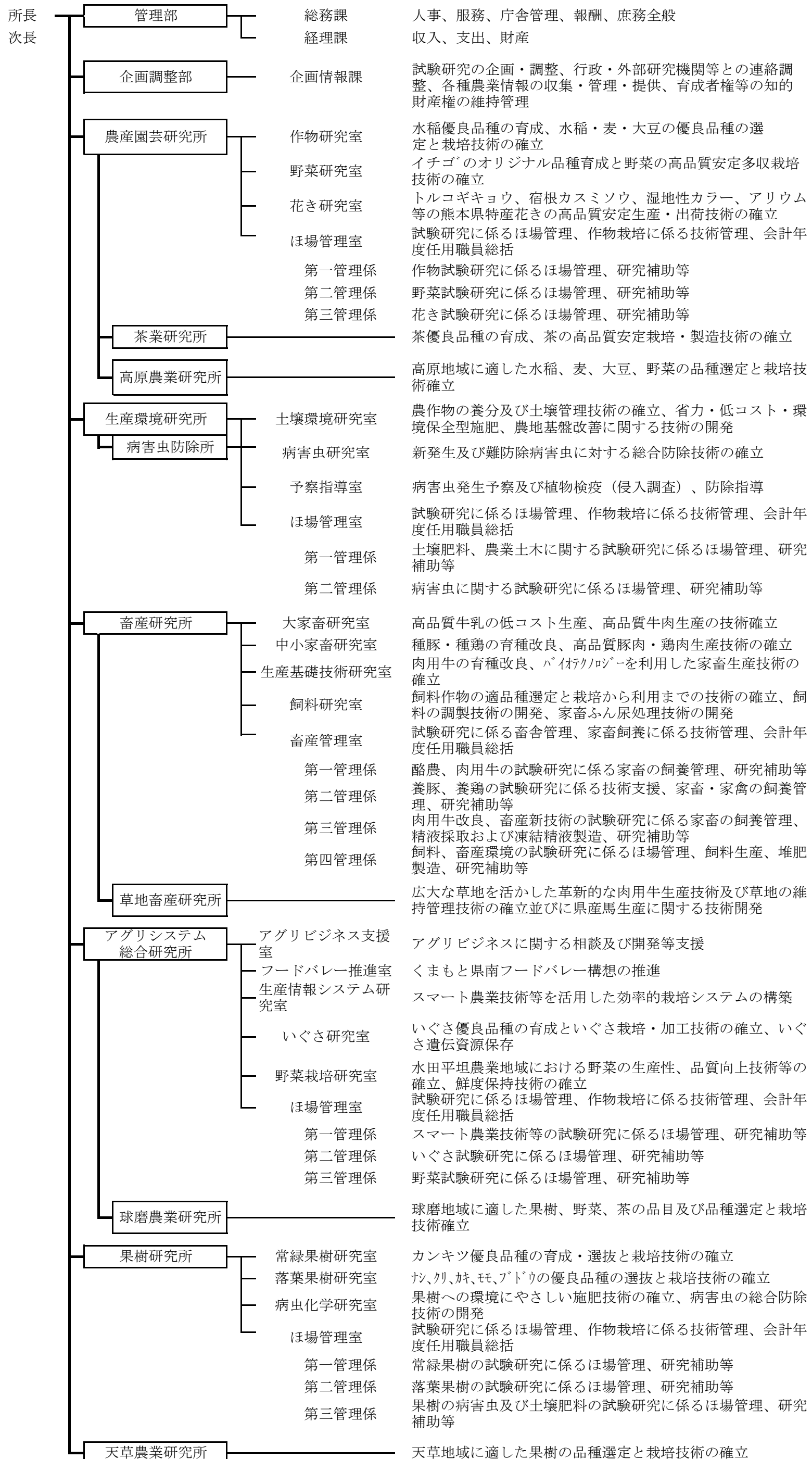
## 1 組織の概要

### (1) 組織と所在地

令和7年3月31日現在

部・研究所名	所在地	電話・FAX番号
管理部	〒861-1113 合志市栄3801	TEL:(096)248-6411(代) (096)248-6412 FAX:(096)248-6415
企画調整部	〒861-1113 合志市栄3801	TEL:(096)248-6422 FAX:(096)248-7039
農産園芸研究所	〒861-1113 合志市栄3801	TEL:(096)248-6444 FAX:(096)248-6450
茶業研究所	〒861-3208 上益城郡御船町大字滝尾5450	TEL:(096)282-6851 FAX:(096)282-6853
高原農業研究所	〒869-2612 阿蘇市一の宮町宮地5896-2	TEL:(0967)22-1212 FAX:(0967)22-2252
生産環境研究所 (病虫害防除所)	〒861-1113 合志市栄3801  (同上)	TEL:(096)248-6447 FAX:(096)248-6493  TEL:(096)248-6490 FAX:(096)248-6493
畜産研究所	〒861-1113 合志市栄3801	TEL:(096)248-6433 FAX:(096)248-6436
草地畜産研究所	〒869-2304 阿蘇市西湯浦1454	TEL:(0967)32-1231 FAX:(0967)32-4504
アグリシステム総合研究所	〒869-4201 八代市鏡町鏡村363	TEL:(0965)52-0372(代) FAX:(0965)52-7993
球磨農業研究所	〒868-0422 球磨郡あさぎり町上北2248-16	TEL:(0966)45-0470 FAX:(0966)45-2944
果樹研究所	〒869-0524 宇城市松橋町豊福2566	TEL:(0964)32-1723 FAX:(0964)33-1575
天草農業研究所	〒863-0002 天草市本渡町本戸馬場636	TEL:(0969)22-4224 FAX:(0969)24-1852

(2) 主な業務内容



## 2 土地・建物

### (1) 土地 (㎡)

区 分	土 地
センター本部	1,033,263
茶業研究所	71,232
高原農業研究所	43,166
高原農業研究所 (矢部)	15,769
草地畜産研究所	2,343,437
アグリシステム総合研究所	46,918
球磨農業研究所	107,468
果樹研究所	241,927
天草農業研究所	35,422
計	3,938,601

### (2) 建物 (㎡)

区 分	事務所建物	付属建物	計
センター本部	12,939	41,913	54,851
茶業研究所	923	2,003	2,926
高原農業研究所	401	1,562	1,963
高原農業研究所 (矢部)	99	615	714
草地畜産研究所	1,492	7,899	9,390
アグリシステム総合研究所	2,619	4,326	6,945
球磨農業研究所	652	2,094	2,746
果樹研究所	2,700	5,034	7,734
天草農業研究所	1,059	704	1,763
計	22,883	66,148	89,032

※R7.3.31現在 (公有財産台帳口座総括)

1㎡未満四捨五入のため、合計欄が一致しない場合があります。

### 3 令和6年度最終予算

#### (1) 最終予算額及び財源内訳

##### ① 総括

(単位：千円)

事業	予算額	左の財源内訳			
		一般財源	国庫	財産収入	その他
管理運営費	687,265	674,061	0	12,958	246
企画経営情報費	38,029	37,874	0	0	155
農産園芸研究所費	46,676	38,856	0	1,533	6,287
茶業研究所費	4,679	4,172	0	415	92
高原農業研究所費	7,650	6,864	0	546	240
生産環境研究所費	45,725	22,694	3,298	191	19,542
畜産研究所費	141,518	105,077	0	29,256	7,185
草地畜産研究所費	39,426	18,852	0	18,719	1,855
アグリシステム総合研究所費	32,520	23,159	0	995	8,366
球磨農業研究所費	7,603	6,515	0	1,088	0
果樹研究所費	26,472	15,180	0	2,868	8,424
天草農業研究所費	5,035	4,577	0	458	0
本部・耕種部門研究所 ほ場管理費	94,391	90,158	0	4,078	155
農業技術システム管理費	1,225	1,225	0	0	0
計	1,178,214	1,049,264	3,298	73,105	52,547
職員給与費	1,430,980	1,430,980			
計	2,609,194	2,480,244	3,298	73,105	52,547

3 令和6年度最終予算

(単位：千円)

(1)最終予算額及び財源内訳	予算額	左 の 財 源 内 訳			
		一般財源	国 庫	財産収入	その他
農業研究センター管理運営費	687,265	674,061	0	12,958	246
管 理 運 営 費	330,326	317,122		12,958	246
維 持 補 修 費	38,732	38,732			
施 設 改 修 事 業 等	301,813	301,813			
そ の 他	16,394	16,394			
企 画 経 営 情 報 費	38,029	37,874	0	0	155
企 画 経 営 情 報 費	2,582	2,427			155
試 験 研 究 ( ほ 場 ) 設 備 整 備 費	30,724	30,724			
試 験 研 究 高 度 化 推 進 事 業 費	4,723	4,723			
畜 産 研 究 所 費	67,334	52,536	0	14,628	170
畜 産 管 理 費	67,164	52,536		14,628	
自 給 飼 料 分 析 指 導 セ ン タ ー 事 業	170				170
草 地 畜 産 研 究 所 費	26,123	10,225	0	15,898	0
草 地 管 理 費	14,768	885		13,883	
一 般 管 理 費	11,355	9,340		2,015	
本 部 ・ 耕 種 部 門 研 究 所 ほ 場 管 理 費	94,391	90,158		4,078	155
農 業 技 術 シ ス テ ム 管 理 費	1,225	1,225			
合 計	914,367	866,079	0	47,562	726

### 3 令和6年度最終予算

#### (2) 試験研究費総括

(単位：千円)

項 目		予算額	財 源 内 訳			
			一般財源	国 庫	財産収入	諸収入
試 験 研 究 費		263,847	183,185	3,298	25,543	51,821
内 訳	外 部 資 金 試 験 費	36,371	67	3,298		33,006
	県 単 独 試 験 費	208,617	183,074		25,543	
	そ の 他 試 験 費	0				
	受 託 試 験 費	18,859	44			18,815
農 産 園 芸 研 究 所		(1,424) 46,676	(3) 38,856		1,533	(1,421) 6,287
茶 業 研 究 所		4,679	4,172		415	92
高 原 農 業 研 究 所		7,650	6,864		546	240
生 産 環 境 研 究 所		(12,297) 45,725	(27) 22,694	3,298	191	(12,270) 19,542
畜 産 研 究 所		(110) 74,184	52,541		14,628	(110) 7,015
草 地 畜 産 研 究 所		13,303	8,627		2,821	1,855
アグリシステム総合研究所		32,520	23,159		995	8,366
球 磨 農 業 研 究 所		7,603	6,515		1,088	
果 樹 研 究 所		(5,028) 26,472	(14) 15,180		2,868	(5,014) 8,424
天 草 農 業 研 究 所		5,035	4,577		458	

※ ( ) は受託試験費。内数。

## 4 職員数

(令和6年(2024年)6月1日現在)

部・所	行政職等	研究職	技労職	計
センター所長、次長	3			3
管理部	12			12
企画調整部	8			8
農産園芸研究所	4	15	8	28
茶業研究所	2	4	3	9
高原農業研究所	2	3	2	7
生産環境研究所	8	12	2	22
畜産研究所	8	18	16	42
草地畜産研究所	2	4	3	9
アグリシステム総合研究所	11	11	9	31
球磨農業研究所		2	1	3
果樹研究所	4	11	6	21
天草農業研究所		2	1	3
総計	64	82	51	197

※育休代替任期付職員含む

## 5 品種登録・特許取得等

### (1) 品種登録

NO	農林水産植物の種類	登録(出願)品種の名称	登録(出願公表)年月日	登録番号
1	かんきつ	肥の豊	登録 H15. 3. 26	第11252号
2	かんきつ	肥のさやか	登録 H16. 11. 8	第12295号
3	かんきつ	肥のあすか	登録 H16. 11. 8	第12296号
4	かんきつ	肥のあかり	登録 H16. 11. 8	第12297号
5	いちご	熊研い548	登録 H18. 3. 9	第13882号
6	いぐさ	夕風	登録 H19. 2. 20	第14781号
7	かんきつ	肥のみらい	登録 H19. 8. 7	第15547号
8	いぐさ	ひのはるか	登録 H19. 12. 17	第15772号
9	稲	くまさんの力	登録 H22. 9. 17	第19833号
10	いちご	熊本VS02E	登録 H24. 2. 21	第21426号
11	花(カラー)	熊本FC01	登録 H24. 8. 22	第21893号
12	花(カラー)	熊本FC02	登録 H24. 8. 22	第21894号
13	かんきつ	熊本EC10	登録 H24. 10. 23	第22041号
14	いぐさ	涼風	登録 H27. 3. 11	第23967号
15	かんきつ	熊本EC11	登録 H27. 9. 30	第24520号
16	稲	華錦	登録 H28. 11. 7	第25499号
17	いちご	熊本VS03	登録 H29. 2. 8	第25611号
18	なす	ヒゴムラサキ2号	登録 H30. 1. 30	第26515号
19	稲	くまさんの輝き	登録 R1. 10. 15	第27584号
20	かんきつ	熊本EC12	登録 R1. 11. 20	第27602号
21	茶	熊本TC01	登録 R6. 1. 30	第36047号
22	花(カラー)	熊本FC03	登録 R7. 1. 20	第36048号

(令和7年3月31日現在)

(2) 特許

	特許名称	出願年月日	登録番号 (登録年月日)
1	良渋皮剥皮系ニホングリ品種の冷凍渋皮剥皮法	H22. 1. 20	第5429874号 (H25. 12. 13)
2	胞子を用いたクサソテツの低コスト大量苗生産方法	H29. 10. 5	第6492374号 (H31. 3. 15)
3	レタスの褐変性を抑制するためのDNA	H26. 11. 26	第6519728号 (R1. 5. 10)

(令和7年3月31日現在)

## (3) 海外への品種登録

NO	品目	品種名	出願国	出願日	出願番号	登録日	登録番号
1	いちご	熊本VS03	中国	H29. 10. 16	20172720, 2	R5. 12. 29	CNA201727 20. 2
2			韓国	H30. 2. 22	2018-121	R2. 10. 13	8345
3		熊本VS02E	インドネシア	R3. 2. 26	03/Peng/02/2021	R4. 12. 14	00592/PPV T/S/2022
4	花き (カラー)	熊本FC01	中国	H29. 10. 16	20172719, 5	R4. 11. 30	CNA201727 19. 5
5			ニュージーラ ンド	H29. 8. 31	ZAN105, 33806	R2. 11. 12	33806
6		熊本FC02	中国	H29. 10. 16	20172721, 1	R4. 11. 30	CNA201727 21. 1
7			ニュージーラ ンド	H29. 8. 31	ZAN106, 33808	R2. 11. 12	33808
8		熊本FC03	ニュージーラ ンド	R5. 2. 20	36178		
9		かんきつ	熊本EC11	韓国	R2. 3. 10	2020-138	-
10	ニュージーラ ンド			H29. 11. 13	CIT014, 33913	R1. 8. 9	33913
11	中国			R2. 3. 10	20201001227	-	-
12	熊本EC12		韓国	R5. 7. 19	2023-316	-	-
13			ニュージーラ ンド	R2. 12. 17	CIT018, 35188	R4. 3. 7	35188
14			中国	R4. 1. 28	20221001031	-	-

(令和7年3月31日現在)

## 6 研修受入れ

研修生所属等 (人数)	研修期間	受入れ所属	研修内容
熊本県果実農業協同組合連 合会 (3名)	R6. 7. 1～ R7. 3. 20	果樹研究所	果樹栽培全般に関する技術の習得
人事課インターンシップ (畜産職)	R5. 8. 29 R5. 8. 30	畜産研究所	農業研究センター畜産研究所における、飼養管理、飼料作物栽培・調査補助等農作業体験
獣医学生インターンシップ ①2人 ④2人 ②1人 ③2人	①R5. 8. 17 ②R5. 8. 31 ③R5. 9. 7 ④R5. 9. 5	畜産研究所	種雄牛の飼養管理、精液製造等の視察等 家畜の飼養管理、飼料作物栽培・調査補助等農 作業体験
東海大学学生インターン シップ (1人)	R6. 9. 9～ R6. 9. 20	畜産研究所	家畜家禽の飼養管理及び飼料作物生育調査等なら びに種雄牛の飼養管理、精液製造等の視察等
東稜高校生インターンシッ プ (4人)	R6. 8. 21	企画調整部 農産園芸研究所	農研センターの概要、イチゴの品種改良等
農業大学校生インターン シップ	R6. 2. 29 R6. 3. 4 R6. 3. 11 R6. 3. 15	畜産研究所	農業研究センター畜産研究所における、飼養管理、飼料作物栽培・調査補助等農作業体験
動物の行動と管理学会 (24 名)	R6. 9. 13	草地畜産研究所	草地畜産研究所における取り組みや施設の見学 及び現地検討会
菊池市認定農業者菊池支部 (10名)	R7. 1. 17	草地畜産研究所	農業経営の知識・技術の向上を図る目的とし た、畜産のスマート農業技術等に係る視察研修
山口大学共同獣医学部獣医 公衆衛生学実習 (各クール 7-8名)	R6. 06. 11 R6. 06. 25 R6. 07. 09 R6. 07. 23	草地畜産研究所	家畜の飼養管理、飼料作物栽培・調査補助等農 作業体験
家畜人工授精講習会 ①農業大学校生 (14人) ②一般農家等(12人)	①R6. 08. 07 ②R6. 08. 19 R6. 08. 23	草地畜産研究所	家畜人工授精師免許取得に係る講習会 (家畜の 飼養管理、育種、繁殖生理、人工授精に関する 知識の習得及び人工授精の実習)
農業技術課 農業普及職員新任・初任者 研修 (5人)	年間40日 部門：野菜 、土地利用 、畜産	農産園芸研究所 畜産研究所	農業研究センター各研究室 (耕種部門及び畜産 部門) における、栽培・飼養管理、調査補助等 農作業体験

九州大学大学院生物資源環境科学府（1人）	R2. 8. 24 ～R2. 8. 26	生産環境研究所	土壌肥料、病害虫、農業機械・土木技術確立のための研究に関する実習
宮崎大学農学部（1人）	R2. 8. 24 ～R2. 8. 26	畜産研究所	家畜、家禽の飼養管理、飼養作物の栽培管理及び試験研究の実習
熊本大学文学部（1人） 九州大学農学部（1人）	R2. 8. 25	アグリシステム総合研究所	インターンシップ実習（アグリシステム総合研究所における職場体験型コース） 農産加工実習及び耕種部門（いぐさ、施設園芸）研究状況視察
東海大学農学部（4人）	R1. 8. 19 ～R1. 8. 30	生産環境研究所、 畜産研究所	農作物の栽培管理及び試験研究の実習及び家畜、家禽の飼養管理、飼養作物の栽培管理及び試験研究の実習
人事課実施 インターンシップ実習生（2人）	R6. 8. 27	アグリシステム総合研究所	アグリビジネスセンターの概要等について
人事課実施 インターンシップ実習生（1人）	R6. 8. 27～ R6. 8. 29	高原農業研究所	高原農業研究所における試験研究の概要について、湿地性カラー・水稻生育調査、水稻原原種生産について、トマト収穫調査・調整、トマト整枝・誘引、イチゴ苗栽培管理等
人事課実施 インターンシップ実習生（2人）	R6. 8. 20～ R6. 8. 22	生産環境研究所	土壌環境研究室の概要説明と栽培管理作業、土壌分析作業 病害虫防除に係る説明・調査 病害虫発生予察事業・侵入調査事業の概要と現地調査
人事課実施 インターンシップ実習生（3人）	R6. 8. 20～ R6. 8. 22	アグリシステム総合研究所	野菜栽培技術、スマート農業技術、出佐栽培及び加工技術に関する研究内容説明と試験に係る調実習
人事課実施 インターンシップ実習生（1人）	R6. 8. 20～ R6. 8. 22	果樹研究所	カンキツおよび落葉果樹の栽培技術、病害虫防除、施肥法に関する研究内容説明と試験に係る調査実習
天草市立本渡中学校職場体験（2名）	R6. 9. 18～ R6. 9. 20	天草農業研究所	カンキツ収穫等の栽培管理作業、害虫の発生数調査等

7 視察・見学者

(上段：件数、下段：人数)

区分	管 理 部	企 調 整 画 部	農産園芸 研 究 所	茶 業 研 究 所	高原農業 研 究 所	生産環境 研 究 所	畜 産 研 究 所	草地畜産 研 究 所	アグリシス テム総合 研 究 所	球磨農業 研 究 所	果 樹 研 究 所	天草農業 研 究 所	計	
県 内	県庁 ・ 出先機関	1 17	61 214	2 2	4 12	8 30	15 165	6 8	3 17		41 729		141 1,194	
	県議会								2 2				2 2	
	市町村	1 14		3 8		1 1	1 3	1 8					6 34	
	農業団体		6 13	2 3	4 4	2 12	4 77		5 49		153 933	3 24	179 1,115	
	県外郭団体													
	国関係機関			3 10			3 4	3 32						9 46
	教育機関	2 114	1 4		1 2			8 27		1 37		16 196		29 380
	県政モニター・ 各種審議会													
	報道機関			1 3	1 2		3 8		1 2					6 15
	農業者組織 ・ 集団等	4 76		20 228	3 42	1 6		2 15		6 102	1 12	36 519	10 154	83 1,154
	一般農家			14 25	2 2		3 3		1 7	8 124	1 3	53 66	3 5	85 238
	一般県民	1 1	1 1	4 10	2 29		2 2			1 2		8 9		19 54
	業界等			17 25			45 57	1 15		2 62		4 6	3 8	72 173
	その他						1 1	2 3	2 4	2 15				7 23
	小計	9 222	2 5	126 528	16 90	9 22	68 118	35 340	11 29	30 410	2 15	311 2,458	19 191	638 4,428
	県 外	国機関			2 3		1 3		1 1			1 1		6 33
		県機関			4 9				1 3	2 12	3 6	5 66		15 96
		市町村	3 41							1 1				4 42
		農業団体	2 22		3 25				1 19			26 278	1 6	33 350
		教育機関	1 2		3 24			2 6	4 11	1 1	1 16			12 60
農業者		1 30		2 13						4 33			7 76	
その他					3 6	1 1		1 1	2 2				7 10	
外国										1 12			1 12	
業界等		1 9		6 16			5 13				14 44	7 24	33 106	
小計		8 104		20 90	3 6	2 4	7 19	7 16	7 59	10 68		46 389	8 30	118 785
合計		17 326	2 5	146 618	19 96	11 26	75 137	42 356	18 88	40 478	2 15	357 2,847	27 221	756 5,213

## II 試験研究概要等

### 1 試験研究の基本方向

農業者が、将来の夢を描けるよう、競争力のある「稼げる農業」の更なる加速化を目指します。

生産者、実需者及び消費者の多様なニーズを踏まえながら、生産農家の所得向上と消費者への安全・安心で魅力ある農畜製品の提供につながるよう、新品種や革新的な生産技術の開発、環境にやさしい農業を支える技術の開発を行います。

#### (1) くまもとの魅力を発信できる新品種開発・選定

- ① 本県の魅力を発信し、生産現場が夢を描ける品種の開発・選定を進めます。
- ② 美味しさ、健康志向、中食・外食への対応など実需者や消費者ニーズの多様化に対応した品種の開発・選定を進めます。

#### (2) 稼げる農業を目指した革新的な生産技術の開発

- ① 国内外に向けた本県の競争力を高める技術の開発を進め、併せて、食の安全を支える技術や食品規格に対応した技術を開発します。
- ② ICTやAI等の新技術を活用し、低コスト生産技術や生産者の省力・軽作業化などを進めるスマート農業につながる技術を開発します。
- ③ 地球温暖化や令和2年7月豪雨などの気象変動・災害の影響を緩和し、新たに問題となった病害虫等発生に対応した安定生産技術を開発します。
- ④ 熊本の特徴を活かしながら地域固有の課題を解決することで、地域振興につながる技術を開発します。
- ⑤ 高品質な農産物を求める海外への需要や国内流通形態の多様化に対応するため、消費地までの鮮度を保持し、輸送を長期安定化させる技術を開発します。

#### (3) 環境にやさしい農業を推進する技術の開発

- ① 県民の宝である地下水と土を未来に引き継いでいくため、土壌の適正管理などによる環境負荷軽減と高い生産性を両立する技術を開発します。
- ② 天敵や物理的・耕種の防除等を総合的に組み合わせ、病害虫を管理する技術を開発します。
- ③ 中山間地域における多面的機能や豊かな自然環境など、地域に潜在する資源や環境を活用することで、環境と調和した持続可能な農業の実践を目指すSDGs（Sustainable Development Goals、持続可能な開発目標）に沿った農業技術を開発します。

### 2 試験研究の推進方策

センターにおける試験研究の実施にあたっては、研究部門間やセンター内外との協議の活性化、効率的な課題設定・進行管理により、研究基盤を強化し、研究を進展させ、効果的に成果を発信します。

センター職員の研究及び現場管理能力を向上させることで研究水準を高度化し、また設備や機器を充実化することで、研究基盤を整備し、より精度・確度の高い成果の得られる研究体制を作ります。

また、研究の実施にあたっては、生産者、実需者及び消費者が求める、省力的かつ高品質な生産、安定供給、情報発信、安全・安心、多面的機能の発揮など、多様なニーズを踏まえながら、研究の課題重点化や部門横断化を進め、効果的かつ発展的に研究を実施します。

得られた研究成果については、多方面から精査・検証を行い、農業現場に迅速かつ幅広く活用できるよう発信していきます。

#### (1) 試験実施体制の強化

- ① 研究員等の能力向上
  - ・ 学会、研究会や協議会への参加、大学・農研機構への研究員派遣、特別研究員や専門研究員の招へい、県内外の大学との学術研究交流等を通じて、研究員の能力向上を図ります。
  - ・ 若手や経験年数が少ない研究員に対しては、派遣研究や学会等発表へ誘導することで、高度な研究に接する機会を増やし、将来を担う研究員の育成を図ります。
  - ・ 職場内OJTを活用し、研究員や研究をサポートする職員の技術力の向上を図ります。
  - ・ 定期的なセンター内研修の実施により、研究員の研究倫理を向上させます。
- ② 研究マネジメント力を有する研究員の育成
  - ・ 学位取得、学術誌への論文投稿支援などにより、国や民間機関などとのネットワークを有し、関係機関との連携など組織力を発揮できる研究マネジメント力を持つ、総合的な役割を担う研究員を育成します。
- ③ 強固な研究環境基盤の整備
  - ・ 各部門間の連携や他の研究機関等との共同研究により研究体制の強化を図ります。

- ・ 先進的な研究設備・備品のほか、新規試験研究に必要な備品の計画的な整備により、より精度・確度の高い成果の得られる研究環境を整備します。
- ・ 確実に試験研究を実施していくため、写真・動画等による作業マニュアルの整備、OJT等により、研究を支える現場管理職員の栽培・飼養技術の維持・向上を図ります。
- ・ 遠隔地との情報交換を迅速かつ円滑に行えるよう、高速回線によるWeb会議システムを充実化させ、センターのICT化を進めます。

#### (2) 発展的な研究の実施

- ① 農業生産現場等から期待される課題設定
  - ・ 多方面からのニーズ調査を基本に、生産現場の課題解決に直結する課題を設定します。また、地域研究所の機能を発揮し、専門研究所と連携・分担した課題や地域の特色に応じた課題に取組みます。
  - ・ 県の施策を推進するため、重要かつ緊急な課題に対して、行政・普及と一体となって取り組みます。
  - ・ 研究の効率性を高め、早期に成果に結びつけるため、緊急性、重要性、研究成果の活用や目標達成の可能性などを考慮しながら、課題の一層の集約化、重点化を図ります。
- ② 行政や普及分野ニーズに対応する試験研究の実施
  - ・ 行政や普及分野の課題を解決するため、熊本県農業技術会議（以下「技術会議」という。）の審議により、農業生産現場が抱える喫緊の課題や県施策に対応した試験研究への一層の重点化を図り、効果的かつ効果的な試験研究を実施します。
- ③ プロジェクト研究や共同研究の推進
  - ・ 多様化、高度化する研究ニーズに対して、また、人材育成を図る観点からも、複数の研究部門にまたがるプロジェクト研究や農業者、民間、大学、農研機構、県内外公設試験研究機関との共同研究を推進します。
  - ・ 特に共通の課題を抱える九州各県の公設試験研究機関や農研機構九州沖縄農研センターとの連携を強化します。
  - ・ ICT技術、機能生成成分分析など様々な分野で研究の高度化を図るため、農業分野以外との連携を進めます。
  - ・ 共同研究については、研究機関、民間企業等を含めた研究ネットワークを活用し研究員の交流や研究内容の情報交換などによる連携を深めるとともに、競争的外部資金の一層の獲得を推進します。

#### (3) 研究成果の効果的な発信

- ① 多方面からの課題と成果の評価
  - ・ 研究課題及び研究成果については、農業研究センター内部の評価、技術会議による行政、普及の観点からの評価、外部有識者や生産・流通関係者による外部評価、学会や研究会による学術的な評価など多方面からの評価を行います。
  - ・ 学会や九州農業試験研究機関協議会への参加、大学・農研機構への研究員派遣、特別研究員や専門研究指導員の招へい、東海大学や九州大学、県立大学との学術研究交流などを通じて、研究員の能力向上を図ります。また、研究員の業績をデータベース化し、今後の研修や人材育成に活用します。
- ② 知的財産権の取得と活用
  - ・ 研究成果の中で、普及が期待される品種や特許等としての活用が考えられるものについては、速やかに育成者権や特許権など知的財産権の取得を進めます。
  - ・ 取得した権利は、県内生産者や県民の利益につながるよう戦略的な活用を図ります。
- ③ 速やかな情報発信
  - ・ ICT、SNS、ホームページなど様々な情報伝達ツールを活用し、迅速かつ積極的に研究成果の情報を発信します。
  - ・ 現場での普及や活用状況をモデルケースとして広報するなど、生産現場とマッチした情報提供を行います。
- ④ 研究成果の迅速な普及・定着とその検証
  - ・ 開発段階における研究成果については、モニター農家制度等を通じて現地実用性を高めるとともに、専門部会の評価機能を活用し、より生産現場に普及しやすい形での研究成果の総合化や体系化を図ります。
  - ・ 関係課、普及組織、農業団体、農業者、地域営農組織、農業法人などと連携し、現地試験の推進や普及現場への研究員の派遣などによる研究成果の浸透を図ります。
  - ・ 成果の普及状況を検証するフォローアップ調査により問題点を把握し、その結果を試験研究計画へフィードバックします。

## 2 大学との連携関係状況等

### (1) 協定締結状況

#### ①東海大学

- ・平成18年3月に学術研究交流協定を締結し、平成23年4月、令和3年4月に再締結

#### ②熊本県立大学

- ・平成21年2月に包括協定を締結

#### ③九州大学

- ・平成25年2月に学術研究交流協定を締結

#### ④熊本大学

- ・平成31年2月に学術研究交流協定を締結

### (2) 連携行事関係

大学名	期日	内容
東海大学	R7. 1. 22	学術研究交流会の開催 場所：東海大学熊本空港キャンパス 出席者：32名（うち農研センター14名） 研究事業報告として、「放牧ICTと肉用牛の低コスト生産に関する研究（草地畜産研究所・猪野所長）を発表
	R6. 12	農業研究センター研究報告第32号の外部査読 5論文の査読を依頼
熊本県立大学	R6. 10. 7	新熊本学の講義への特別講師派遣（対面講義） 熊本の農業（池田次長）
	R6. 10. 21	熊本の園芸（藤田農産園芸研所長）
	R6. 11. 11	熊本の畜産（木庭畜産研究所長）
九州大学	R6. 11. 22	学術研究交流協議会 場所：農業研究センター講堂 出征者：37名（うち農研センター28名） 共同研究（青果物輸送：アグリシステム総合研究所）及び、カンキツ類での新型天敵増殖システム、夏季高温に対応したいぐさ・豊表の安定生産技術開発について発表
熊本大学	R6. 11. 13	理学部生物学コースから21名の視察あり 農業研究センターの概要、天草大王復元の取組について説明

### 3 普及に移した成果

#### (1) 農業の新しい技術

No. 761
<p>水稻「くまさんの輝き」における中干し期間拡大がメタンガス発生量並びに収量・品質に及ぼす影響</p>
<p>農産園芸研究所作物研究室 担当者：林田裕樹</p>
<p>研究のねらい</p> <p>地球温暖化が深刻化する中で農業分野においても温室効果ガスの削減が求められている。水田からのメタンガス排出削減技術として中干し期間の拡大があるが（農業研究成果情報 No. 450）、「くまさんの輝き」への影響は不明である。そのため、中干し期間を拡大した時の「くまさんの輝き」における収量、品質等に及ぼす影響を明らかにする。</p>
<p>研究の成果</p> <p>1. 「くまさんの輝き」栽培において、中干し期間を慣行より拡大することで、水田から発生する中干し後のメタンフラックス（単位時間・単位面積当たり発生するメタンガスの量）は低く推移する。水稻生育期間中に排出されるメタンガスの慣行に対する削減割合は、中干し4日間拡大で約4割、中干し7日間拡大で約6割となる。</p> <p>2. 中干し期間を慣行より拡大することで、<math>m^2</math>当たり籾数が減少傾向となるが、登熟歩合が向上、千粒重が増加傾向となるため、慣行と同等の収量が得られる。また、玄米の充実が良くなるため、慣行より品質が良好となる。</p> <p>以上のことから、「くまさんの輝き」栽培において中干し期間を慣行より拡大（4日間および7日間）すると、水田からのメタンガスの発生量を削減でき、慣行と同等の収量が得られる。また、玄米の充実が良くなるため品質は良好となる。</p>

No. 762
<p>高設栽培におけるイチゴ「ゆうべに」の頂花房の最適な着果数</p>
<p>農産園芸研究所野菜研究室 担当者：鍋田宗貴</p>
<p>研究のねらい</p> <p>イチゴ「ゆうべに」の高設栽培では、土耕栽培に比べて根域が制限されるため、高設栽培と土耕栽培では最適な着果数（摘花（果）後に残す果数）が異なる可能性がある。これまで、土耕栽培では頂花房の最適な着果数を明らかにしているが、高設栽培では不明である。</p> <p>そこで、高設栽培における頂花房と第1次腋花房間の最適な葉数と頂花房の着果数の組み合わせを明らかにする。</p>
<p>研究の成果</p> <p>1. 頂花房と第1次腋花房の花房間葉数4枚の時は、着果数が9果にすることで可販果一果重が確保され、可販果収量が多くなる。</p> <p>2. 花房間葉数3枚の時は、着果数を6果および9果にすることで可販果一果重が確保され、可販果収量が多くなる。</p> <p>3. 花房間葉数2枚の時は、着果数を6果にすることで可販果一果重が確保され、可販果収量が多くなる。</p> <p>4. いずれの花房間葉数でも、着果数を6～9果にすると2月の草高が高く、展開第3葉が大きく生育が優れ、販売金額も多くなる。一方、着果数を12果以上にすると12月下旬の糖度が低下し、がく枯れ果の発生が多く、果実品質が低下する。</p> <p>以上のことから、生育、収量および品質を総合的に判断すると、高設栽培におけるイチゴ「ゆうべに」の頂花房の最適な着果数は、花房間葉数4枚では9果、3枚では6～9果、2枚では6果である。</p>

No. 763
<p>夏秋ホウレンソウ「ジャスティス」の発芽と生育温度の閾値および遮光資材の利用法</p>
<p>高原農業研究所 担当者：東崎大</p>
<p>研究のねらい</p> <p>ホウレンソウの生育適温は15～20℃といわれており、近年の地球温暖化の影響で阿蘇地域においても梅雨明け後から8月中旬の期間（以下、盛夏期）は、高温による発芽不良や生育抑制により栽培が困難となっている。</p> <p>そこで、グロースチャンパを利用してホウレンソウの発芽とその後の生育に影響を及ぼす温度を解明する。併せて、降温手段としての遮光資材利用が一株重、収量等に及ぼす影響を明らかにする。</p>
<p>研究の成果</p> <p>1. 夏秋ホウレンソウ「ジャスティス」の播種6日後の発芽率は、32℃以下では90%以上となり、34℃以上では80%に満たない。</p> <p>2. 生育適温20℃と同等の生育をするのは32℃までであり、34℃以上では20℃と比べて生育が劣る。</p> <p>3. 降温手段として遮光資材を利用する場合は、遮光率40%が一株重は重く、可販収量も多い傾向である。また、遮光資材の除去は、収穫10日前が一株重は重い傾向である。収穫時の葉色に差は無い。</p> <p>4. 盛夏期に上記1、2、3を踏まえ遮光率40%の遮光資材を利用すると、発芽期地温は約34℃、生育期気温は約33℃となり、出芽率70%程度以上、一株重17g程度、10a当たり収量1,000kg以上が確保できる。</p> <p>以上のことから、「ジャスティス」の発芽およびその後の生育に影響を及ぼす温度の閾値（境目となる温度）は32℃と34℃の間にある。降温手段として遮光資材を利用する場合は遮光率40%程度とし、収穫10日前に除去すると良い。</p>

No. 764
<p>原種鶏における増体性遺伝子（CCKAR）の優良型への固定による肉用鶏天草大王の改良</p>
<p>畜産研究所 中小家畜研究室 担当者：山本貴大、木村真弓、江口敬子</p>
<p>研究のねらい</p> <p>当所では、原種天草大王および肉用鶏天草大王において、増体性に関わるコレラキニンA受容体（以下、CCKARという。）遺伝子は、優良型であるA/A型が、A/C型およびC/C型と比べ、増体性が優れることを明らかにしている。</p> <p>そこで、本研究では、当所で飼養する「民間種鶏場への雛供給用原種鶏群（原種天草大王及び九州ロード）」のCCKAR遺伝子を優良型に固定することにより、生産農場の肉用鶏天草大王の増体性向上に取り組む。</p>
<p>研究の成果</p> <p>1. 当所で飼養する「民間種鶏場への雛供給用原種鶏群」は、年間を通して種鶏場へ雛を供給するため、孵化の時期をずらした春種鶏群と秋種鶏群の2群がある。平成29年度から遺伝子情報による選抜に着手し、令和3年度において春・秋種鶏群ともに、原種天草大王および九州ロードのCCKAR遺伝子は、優良型への固定が完了した。</p> <p>2. 固定後の原種天草大王および九州ロードの平均体重は、取組み前と比べ、重くなった。</p> <p>3. これに伴い、生産農場の肉用鶏天草大王のCCKAR遺伝子は、優良型への固定が完了した。</p> <p>以上のことから、CCKAR遺伝子が優良型である肉用鶏天草大王が生産現場に普及しており、肉用鶏天草大王の増体性向上が期待できる。</p>

No. 765											
褐毛和種種雄牛「幸弦光」の選抜											
畜産研究所生産基礎技術研究室 担当者：福島敬太											
研究のねらい	産肉能力直接検定で選抜された種雄牛の遺伝的能力を推定するため、産肉能力現場後代検定及び育種価評価を実施し、その結果に基づき優秀な種雄牛を選抜する。										
研究の成果	<p>1. ばらの厚さの能力に優れた褐毛和種種雄牛「幸弦光」を選抜した。</p> <p>○血統</p> <table border="0"> <tr> <td rowspan="2">父 幸泉 (高 92)</td> <td>祖父 波泉(繁殖 116)</td> <td>— 光玉波(高 80)</td> </tr> <tr> <td>祖母 ゆきみ☆☆(育高 739)</td> <td>— 第十四光重(高 83)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">母 第6さかえ (育高 911)</td> <td>祖父 第四弦光(高 88)</td> <td>— 第四光重(高 82)</td> </tr> <tr> <td>祖母 第3さかえ(繁殖 16894)</td> <td>— 第三光重(繁殖 29)</td> </tr> </table> <p>○登録番号：繁殖 2 4 2 ○生年月日：令和元年 8 月 1 8 日 ○生産地：阿蘇郡南阿蘇村（後藤 晴雄 氏）</p> <p>2. 現場後代検定成績および育種価 ○ばらの厚さは去勢が8.5cm、全体平均が8.2cmでいずれも歴代トップクラスの成績となり、育種価でも0.82(評価種雄牛548頭中12位)と高い評価となった。 ○SBV※は、ばらの厚さが1.29と肉量の改良効果が大いだと推定される。 ※SBV(標準化育種価)とは、産肉能力の特徴を把握しやすくするため、各形質の育種価を同一スケール上で比較できるように加工したもの。</p> <p>3. 特徴 本牛は、脂肪交雑の育種価ランクが県内上位10%以内(当時)であった母牛とロース芯面積と脂肪交雑に優れる「幸泉」との交配により作出された。現場後代検定では、ばらの厚さの成績に優れ、去勢、全体平均で歴代トップクラスの成績であった。このことから本牛は、「幸泉」の後継牛として肉量の面で改良への貢献が期待される。</p>	父 幸泉 (高 92)	祖父 波泉(繁殖 116)	— 光玉波(高 80)	祖母 ゆきみ☆☆(育高 739)	— 第十四光重(高 83)	母 第6さかえ (育高 911)	祖父 第四弦光(高 88)	— 第四光重(高 82)	祖母 第3さかえ(繁殖 16894)	— 第三光重(繁殖 29)
父 幸泉 (高 92)	祖父 波泉(繁殖 116)		— 光玉波(高 80)								
	祖母 ゆきみ☆☆(育高 739)	— 第十四光重(高 83)									
母 第6さかえ (育高 911)	祖父 第四弦光(高 88)	— 第四光重(高 82)									
	祖母 第3さかえ(繁殖 16894)	— 第三光重(繁殖 29)									

No. 766	
カンキツ「熊本EC12」の無加温ハウス栽培は露地栽培よりも収量が多く果実は大玉で外観は良好となる	
果樹研究所常緑果樹研究室 担当者：佐々木雲海 天草農業研究所 担当者：川端 義実	
研究のねらい	「熊本EC12」は年内に収穫できる早生カンキツとして、県南地域を中心に栽培面積が増加しているが、無加温ハウス栽培における生育特性は不明である。 そこで、無加温ハウス栽培における特性を明らかにし、栽培管理の基礎資料とする。
研究の成果	<p>無加温ハウス栽培は露地栽培に比べて、以下のような特性の違いがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発芽、開花盛期および果実着色が早くなり、果実糖度、酸度には差がない。</li> <li>2. 樹冠容積の拡大は早く、1樹あたりの収量は多くなる。</li> <li>3. 果実は大玉傾向で、3L果以上の割合が2割程度多くなる。</li> <li>4. 病害虫や枝・トゲ等による傷果の発生割合は少ない。</li> </ol> <p>以上のことから、「熊本EC12」の無加温ハウス栽培は、果実着色が早くなり、樹冠容積の拡大も早く収量は多くなる。また、果実階級は3L果以上の割合が高くなり、外観は良好である。</p>

(2) 令和6年度(2024年度)農業研究成果情報一覧表

No	研究名	担当研究所・室名、担当者名	研究成果情報
1098	水稲「くまさんの輝き」の高品質安定生産のための適正な㎡当たり籾数	農産園芸研究所作物研究室 (担当者: 出田太郎)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 1等米比率は、㎡当たり籾数が25,000~27,000粒で高くなる。</li> <li>2. 玄米タンパク質含有率は、㎡当たり籾数が増加すると高くなる傾向があり、玄米タンパク質含有率6.5%以下となる㎡当たり籾数は約30,000粒以下である。</li> <li>3. 収量は、㎡当たり籾数が約25,000粒以上になると目標収量54kg/aを上回る。以上の結果から、「くまさんの輝き」の高品質安定生産のための適正な㎡当たり籾数は25,000~27,000粒である。㎡当たり籾数が25,000~27,000粒の場合、収量は54~57kg/a程度を確保できる。</li> <li>4. 穂数と㎡当たり籾数の間には正の相関があり、㎡当たり籾数25,000~27,000粒を確保するための穂数の目安は㎡当たり325~350本程度である。</li> <li>5. 登熟歩合は、㎡当たり籾数が増加すると低くなる傾向があるが、㎡当たり籾数が25,000~27,000粒の場合、登熟歩合は89%程度と高位である。</li> <li>6. 食味官能評価と㎡当たり籾数との間に関係性は認められない。</li> <li>7. 千粒重と㎡当たり籾数との間に相関は認められない。</li> </ol>
1099	中干しを慣行と比べ7日間拡大することで水田からのメタンガス発生量を削減できる	農産園芸研究所作物研究室 (担当者: 林田裕樹) 生産環境研究所土壌環境研究室 (担当者: 宇梶徳史)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中干しを慣行(4日間)から7日間拡大することで、水田から発生する中干し後から収穫時までのメタンフラックスは慣行より低く推移する。</li> <li>2. 中干しを拡大することで、水田から発生する中干し後のメタンガス発生量は慣行より減少し、水稲期間中のメタンガス発生総量も減少する。</li> <li>3. 「ヒノヒカリ」では中干し期間の拡大により、品質は同等であるが、㎡あたり籾数が減少することで減収する場合がある。</li> </ol>
1100	温度、施肥がイチゴ「ゆうべに」の花房間葉数に及ぼす影響	農産園芸研究所野菜研究室 (担当者: 鍋田宗貴)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 次級花房の花房間葉数は、花芽分化時液肥に比べて定植時液肥施用で多くなる。ただし、定植後(9月23日~10月15日)の低温条件下(平年-3℃)では差がない。</li> <li>2. 定植後の温度が平年および高温(平年+3℃)条件下では、定植時液肥を施用すると葉色および体内硝酸イオン濃度が高くなるため、頂花房と第1次級花房の花房間葉数は多くなる。しかし、定植後が高温条件下であっても、定植時液肥を施用しないと、葉色は淡くなり、体内硝酸イオン濃度が低くなるため、花房間葉数は少なくなる。</li> <li>3. 育苗期の施肥量は、頂花房と第1次級花房の花房間葉数に及ぼす影響は小さいが、定植前後(9月1日~30日)の温度が低いと定植後の地温も低くなり、定植後の硝酸イオン濃度が低くなるため、花房間葉数は少なくなる。</li> </ol>
1101	イチゴ「ゆうべに」の収量確保について【成果】なごる厳寒期の生育調査項目	農産園芸研究所野菜研究室 (担当者: 鍋田宗貴)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2月の草高は、2月の収量および総収量と相関が高く、草高27~28cmの収量は最大となる。12月および4月の草高、展開第3葉の葉長、葉色は、各月の収量および総収量との相関が低い(データ省略)。10株当たりの調査に要する時間は、着果数&lt;草高&lt;新葉長&lt;展開第3葉の葉長&lt;葉色の順となる。</li> <li>2. 新葉長および着果数は、高収量では、新葉長が大きく伸長すると、約30日後に草高が大きく上昇する。低収量では、着果数を制限しないと(8果以上)30~40日後に草高が約20cmまで低下する。展開第3葉の葉長は、草高と同様の推移をする。葉色は、高収量より低収量がやや淡く推移するが、差は小さい(データ省略)。</li> <li>3. 高収量では、調査時の新葉長は約30日後の草高と相関が最も高く、調査時の着果数は草高との相関は低い。低収量では、調査時の着果数は約30日後の草高と負の相関が最も高く、調査時の新葉長は草高との相関は低い。</li> <li>4. 生育診断には、新葉長、着果数、草高の調査項目が適する。</li> </ol>
1102	イチゴ「ゆうべに」における個葉の光合成速度に与える温度、CO2濃度、光の影響	農産園芸研究所野菜研究室 (担当者: 深水信太郎)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 光合成速度は、温度が16℃から24℃まで上昇するに従い緩やかに増加するが、24℃から32℃の間では差がない。</li> <li>2. 光合成速度は、CO2濃度が上昇するに従い増加する。また、200ppmから400ppmへ上昇すると光合成速度は約2倍となり、800ppm以上では緩やかな増加に留まる。</li> <li>3. 光合成速度は、光量子束密度が高くなると増加し、600μmol m<sup>-2</sup> s<sup>-1</sup>以上では緩やかな増加に留まる。</li> <li>4. 光量子束密度400μmol m<sup>-2</sup> s<sup>-1</sup>の時、温度同一条件下でCO2濃度を400ppmから800ppmに上げた方がCO2濃度同一条件下で温度を18℃から22℃に上げるより、光合成速度の増加量は大きい。</li> </ol>
1103	グリーン系湿地性カラー「熊本FC03」の生育に及ぼす気温と水温の影響	農産園芸研究所花き研究室 (担当者: 福島健祐) 農産園芸研究所 花き研究室	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 気温(10℃、15℃、20℃、25℃)は草高、展開葉長、SPAD値および展開葉数に影響を及ぼし、20℃と25℃が10℃と15℃より草高は高く、展開葉長は大きく、SPAD値は高い。展開葉数は20℃と25℃が15℃より多い。平均気温18.0℃における水温(10℃、14℃、18℃、22℃)が生育に及ぼす影響は以下のとおりである。</li> <li>2. 地上部の生育では、草高に影響を及ぼし、18℃と22℃が10℃と14℃より高い。</li> <li>3. 地下部の生育では、総生体重および根の乾燥重に影響を及ぼし、10℃と14℃が18℃より軽く、根腐れが生じる。</li> </ol>
1104	アリウム「丹頂」1月出荷作型では、球根冷蔵期間が長いほど収穫期が早い	農産園芸研究所花き研究室 (担当者: 福島健祐)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 5℃での球根冷蔵期間8~18週間の影響は以下のとおりである。</li> <li>1. 出芽率への影響は小さく、出芽までの日数は12週間以上が8週間より少ない。</li> <li>2. 定植2週間後の展開葉数は、16週間以上が12週間以下より少ない。</li> <li>3. 出芽率への影響はなく、冷蔵期間が長いほど、定植から出芽までの日数は少なく、ばらつきを示すCV値(標準偏差/平均値)が小さい。</li> <li>4. 収穫率への影響はなく、冷蔵期間が長いほど、出芽から収穫までの日数および到花日数が少なく、到花日数は18週間ではばらつきが小さい。</li> <li>5. 切り花品質における切り花長、切り花重、花茎径および花房高への影響は小さいが、花房幅および小花数は16週間以上が8週間より劣る。</li> </ol>
1105	宿根カスミソウ「アルタイル」の収穫日は発蕾日からの日平均気温で予測できる	農産園芸研究所花き研究室 (担当者: 矢本舞子)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 異なる日平均気温(11.5℃~26.0℃)で行った試験1~試験11の発育速度(発蕾日から収穫日までの日数の逆数)は、0.019~0.062である。</li> <li>2. 発蕾日から収穫日までの日平均気温と、積算温度および発育速度の間には、強い相関がある。</li> <li>3. 日平均気温と発育速度との関係式の係数より、発蕾から収穫までの基底温度(発育が進まない日平均気温、以下Tb)は5.3℃、有効積算温度(Tb以上の日の日平均気温を合計した値、以下TT)は370.4℃日である。</li> <li>4. 日平均気温と積算温度および発育速度に強い相関関係があることから、発蕾日から収穫日までの日数は、発蕾日から収穫予定日までの日平均気温(目標とする管理気温、以下T)を用いて、TT/(T-Tb)の式で算出でき、「アルタイル」の式は370.4/(T-5.3)である。</li> <li>5. 9月6日にビニールハウスのほ場へ定植し、発蕾日以降を日平均気温20℃で管理した「アルタイル」の平均実測収穫日と、予測式で算出した平均予測収穫日の差は1日、1本ごとの誤差(RMSE)は2.52日である。</li> </ol>

(2) 令和6年度(2024年度)農業研究成果情報一覧表

No	研究名	担当研究所・室名、担当者名	研究成果情報
1106	湿水性カラー「熊本FCO1」切り花は10℃貯蔵で開き程度をそろえて出荷できる	農産園芸研究所花き研究室 (担当者：日名田祐希)	1. 仏炎苞の開きは、25℃より3℃～10℃で抑制できる。 2. 10℃で切り前Ⅲにそろえるための貯蔵は、収穫時の切り前Ⅲでは1日、Ⅱでは1日後にⅢに達し3日後まで、Ⅰでは4日後にⅢに達し7日後まで可能である。 3. ミラクルミスト処理のタイミングは、貯蔵後で効果が高い。 4. 貯蔵で切り前Ⅲにそろえた後にミラクルミスト処理を行った切り花は、貯蔵なしの切り花と同程度以上である。
1107	CTC製法により製造した緑茶の冷水抽出の滋味特性	茶業研究所 (担当者：小野亮太郎)	1. CTC緑茶は、95℃で抽出すると滋味の評価は劣るが、75℃、15℃で抽出すると良好となる。 2. CTC緑茶を水出し茶として10℃で抽出する場合、6g/300ml、30分で抽出すると滋味は良好となる。
1108	嫌気処理を行ったチャ生葉のγ-アミノ酪酸(GABA)生成における品種間差異	茶業研究所 (担当者：小野亮太郎)	1. チャ生葉を嫌気処理させて得られるγ-アミノ酪酸の生成効率については品種間差異がみられ、生葉中の全窒素量に対するγ-アミノ酪酸生成効率は「おくみどり」、「さえみどり」が多く、「やぶきた」は少ない。 1. チャ生葉を約20℃、20時間程度嫌気処理を行うことで、チャ葉中全窒素量が4%以上であれば生成されるγ-アミノ酪酸量は150mg/100g以上が期待される。
1109	イチゴ「ゆうべに」慣行基肥施用における定植前後の畝内無機態窒素の変化	生産環境研究所土壌環境研究室 (担当者：古嶋隼弥)	1. 黒ボク土において畝内(0～15cm)の無機態窒素は基肥施用後3～4週間増加した後減少し、かん水を経た定植1週間後の畝内(0～15cm)の無機態窒素は、定植時に比べ減少する。灰色低地土においてもかん水を経た定植1週間後の畝内(0～15cm)の無機態窒素は定植時に比べ減少する。 2. 黒ボク土において基肥施用後の畝内(0～15cm)の全窒素は定植時までにほとんど変動しないが、かん水を経た定植1週間後では、無機態窒素と同じく定植時に比べ減少する。灰色低地土においても、かん水を経た定植1週間後の畝内(0～15cm)の全窒素は定植時に比べ減少する(図2、灰色低地土のデータ略)。 3. 黒ボク土において畝内の硝酸態窒素は、かん水後に畝内の表層(0～20cm)では減少するが、次層(20～40cm)および畝下(40cm～80cm)では顕著に増加しないことから、かん水による畝内無機態窒素の下層への溶脱はみられない。
1110	水稲分げつ期に田んぼダムで深さ25cm24時間貯水しても収量・品質への影響は小さい	生産環境研究所土壌環境研究室 (担当者：志柿博昭)	1. 水稲分げつ期に大雨が降ることを想定し、田んぼダムの取組みで水田からの排水量を抑制し深さ25cmの貯水を行うことで、草丈の6割程度が水に浸かるが、深さ25cm貯水を24時間行っても対照の深さ10cmと比較して生育および収量・品質への影響は小さい。 2. 深さ25cm貯水を48時間以上行うと茎数、穂数ならびに粒数の減少等により減収する可能性がある。
1111	水田への有機物連用によるメタンガス発生量への影響と土壌の炭素含有率向上効果	生産環境研究所土壌環境研究室 (担当者：田中一成)	1. 有機物を連用することで、水稲作付期間中のメタンガス発生量は増加する。 2. 水田から麦稈、稲わらを持ち出し、牛ふん堆肥を施用しない場合、水田土壌の炭素含有率は減少するが、有機物を連用すると水田土壌の炭素含有率が増加し、土壌への炭素貯留効果が得られる。 3. 二酸化炭素換算による年間のメタンガス発生量は、有機物を連用することで増加する。しかし、水田からのメタンガス発生量は、有機物の鋤込みによる土壌への炭素投入量に比べ少ない。よって、有機物を連用した水田では、メタンガスの発生量を有機物施用による炭素投入量が上回るため差引きによる温室効果ガス削減効果が得られる。
1112	年内に稲わらを鋤込むことで5月に鋤込む水田からのメタンガス発生量は減少する	生産環境研究所土壌環境研究室 (担当者：宇梶徳史)	1. 前作水稲収穫後の稲わらを1月上旬までに鋤込んだ水田からのメタンフラックスは、5月に鋤込んだ水田に比べて低く推移する。 2. 稲わらの鋤込み時期と中干し期間の組合せにおいて、メタンガス発生量が最も少なくなるのは、年内に鋤込み中干しを拡大した場合である。
1113	年明け短期作型の施設トマト有機栽培における病害虫の発生消長	生産環境研究所病害虫研究室 (担当者：舛本将明・久保一真)	1. 年明け短期作型の施設トマト有機栽培ほ場では、4月以降にうどんこ病、すすかび病、葉かび病、灰色かび病が発生し始め、栽培終了にかけて増加する傾向にある。 2. タバココナジラミの発生は、4月下旬から野外での発生に伴いほ場内でも増加する傾向にある。同時期に、ほ場内で黄化葉巻病の発生が認められる(データ省略)。 3. 栽培終了後のほ場内で採集したタバココナジラミは、6割以上がTYLCVまたはTOCVを保毒しており、ほ場内の感染リスクは高い傾向にある。
1114	年明け短期作型の施設トマト有機栽培で発生する病害虫に対する有機JAS対応薬剤の防除効果	生産環境研究所病害虫研究室 (担当者：舛本将明・久保一真)	1. 発病前からのトマトうどんこ病、すすかび病等に農薬登録を有する有機JAS対応殺菌剤の予防防除により、無防除と比べてうどんこ病の発病時期を遅らせ、病徴の進展を抑えることができる。しかし、すすかび病については5月以降に増加し、防除効果はやや低い傾向にある。 2. タバココナジラミが低密度時から天敵のタバコカミメを導入し、トマトのコナジラミ類に農薬登録を有する有機JAS対応殺虫剤を散布することで、無防除よりも本害虫を低密度に抑えることができる。また、本害虫が引き起こすウイルス病の発生は、慣行防除と同様に少ない(データ省略)。 3. 防除方法の違いが可販果収量に及ぼす影響については、無防除では慣行防除に比べ減収するが、有機栽培では慣行防除と同程度になる。
1115	熊本県内で初確認されたトマトキバガ個体群の中間齢幼虫に対する薬剤の殺虫効果	生産環境研究所病害虫研究室 (担当者：川本牧葉、春山靖成)	1. トマトキバガ3齢および4齢幼虫に対する7系統薬剤の殺虫効果は、スピネトラム水和剤(IRACコード：5)、クロルフェナビル水和剤(同：13)、インドキサカルブ水和剤(同：22A)、シアントラニプロロール水和剤(同：28)、フルキサメタミド乳剤(同：30)が高く、アバメクチン乳剤(同：6)、ピリダリル水和剤(同：UN)で認められる。 2. 本試験と同一個体群を供試したトマトキバガ若齢幼虫(2齢幼虫)に対する殺虫効果(農業研究成果情報No.1068)と比較して、スピネトラム水和剤、クロルフェナビル水和剤、インドキサカルブ水和剤、シアントラニプロロール水和剤およびフルキサメタミド乳剤は同程度の殺虫効果を示すが、ピリダリル水和剤では低い傾向にある。
1116	開発したデュロック種の活用により増体量および飼料効率を向上させることが可能である	畜産研究所中小家畜研究室 (担当者：津田健一郎、黒田翔太)	1. 開発したデュロック種の子豚および雌豚は、改良目標のDG 1,030g、FCR 2.8を達成した。 2. 開発したデュロック種は、枝肉時の背脂肪の厚さ、体長、体幅およびロースの筋肉内脂肪含量(IMF)は、一般的な肥育豚と遜色なく良好である。 3. 開発したデュロック種を用いて生産したLWDの肥育豚においては、DG、FCRともに改良目標に到達し、止め雄として十分な能力を有している。

(2) 令和6年度(2024年度)農業研究成果情報一覧表

No	研究名	担当研究所・室名、担当者名	研究成果情報
1117	初生雛の肛門鑑別は、鶏種専用のAIモデルを活用することで、動画での雌雄判定が可能	畜産研究所中小家畜研究室(担当者: 木村真弓、山本貴大、江口敬子)	1. フルHD画質のカメラで撮影した初生雛の肛門画像をMVTEC社のAI開発ツールDeep Learning Toolに学習させることで、雌雄判定AIモデルを作成することができる。 2. 作成したAIの学習精度を示す「最終評価」の判定結果は、原種天草大王のオス99.9%メス99.7%、九州ロードのオス99.1%メス99.3%と、高い学習精度が得られる。 3. AIモデルを実装したシステムを用い、初生雛の肛門動画を判定すると、原種天草大王のオス96.5%メス89.5%、九州ロードのオス80.0%メス97.9%の正答率で判定が可能である。 5. 一方、原種天草大王を九州ロードモデルで判定すると、オス84.6%メス63.3%、九州ロードを天草大王モデルで判定すると、オス75.0%メス86.8%となり、ともに正答率が低下する。このため、AIモデルは鶏種ごとに作成する必要がある。
1118	無針注射器を活用したワクチン接種は、豚のストレスを低減し、作業時間を短縮する	畜産研究所中小家畜研究室(担当者: 黒田翔太、津田健一郎)	1. 無針注射器による育成豚へのワクチン接種は、有針注射器による接種と比較し、接種前後のコルチゾール増加値が低いことから、豚に与えるストレスを低減する。 2. 母豚、育成豚へのワクチン接種に無針注射器を使用した場合、有針注射器による接種と比較し、作業時間の短縮が可能である。
1119	春播きトウモロコシ奨励品種P1341、LG31.588の熊本県における品種特性	畜産研究所飼料研究室(担当者: 喜舎場 芽生)	1. P1341、LG31.588は、3月下旬に播種した場合、8月上旬に収穫できる。 2. P1341、LG31.588は、比較品種と同程度の耐倒伏性と病害虫への抵抗性が期待できるが、LG31.588は、比較品種よりごま葉枯病の抵抗性が有意に低かった。 3. P1341、LG31.588は、比較品種と同程度以上の乾物収量が期待でき、有望である。 注) 比較品種: 本県の奨励品種として指定されている品種
1120	養豚汚水処理におけるロボットとAI/ICTを利用したスマート排水処理システムの開発	畜産研究所飼料研究室(担当者: 芝田晃一)	1. MLSS自動制御装置により、設定したMLSS濃度を自動的に維持することができる。 2. BOD監視システムの活用により、適切な曝気時間の自動選択ができ、WEBを介した処理水質の監視および設定値の変更が可能となる。 3. 監視カメラの設置およびダッシュボードの作成により、監視カメラの映像とMLSSの推移をWEBで一元監視することが可能となる。 4. スマート汚水処理システムの活用により汚泥量の確認時間などが減少したため、施設の管理時間を73.4%短縮することができる。
1121	阿蘇地域における野草は、その収量性と栄養価から季節を通して国産飼料として利用できる	草地畜産研究所(担当者: 野崎 由美)	1. 野草地における各野草の割合は、ススキ優占草地では95%であり、ネザサ優占草地では87%、5月~12月でいずれも全体の8割以上を占める。水分率は、改良草地に比べ野草地の方が低く、予乾に要する時間が短い。 2. 乾物収量は7月以降でススキが最も高い値で推移し、TDN含有率は、いずれの野草地も調査期間を通して50%前後と、日本標準飼料成分表の牧草1番草出穂期~再生草と同等、またはそれ以上の数値を示す。 3. 各野草優占地のCP含有率は冬場で特に低く、冬場の野草地を利用する場合は、タンパク補助飼料等の他の飼料と組み合わせる必要がある。 4. NDF含有率はススキが最も高いが、ネザサと改良草地間での有意差はない。
1122	晩秋期以降の野草を含む発酵TMRにより褐毛種肥育にかかる飼料費が低減される	草地畜産研究所(担当者: 小柳 藍夏)	1. 野草発酵TMRによる褐毛種肥育体系では、枝肉重量400~500kg、枝肉等級A-2~A-4程度の枝肉生産が可能。 2. 本研究の野草発酵TMRのkg単価は、前期中、中後期用いずれも45円前後になる。 3. 1頭当たりの飼料費は約31万円となり、飼料自給率は約51%となる。
1123	ドローン空撮画像から得られたNDVIによる普通期水稲「くまさんの輝き」の生育量の推定	アグリシステム総合研究所生産情報システム研究室(担当者: 渡邊弘美)	出穂前30~25日のNDVIと生育量との関係は以下のとおりである。 1. 草丈は、NDVIと測定日ごとに相関関係があるものの、測定日が異なると帰式も異なるため(データ省略)、NDVIのみでの推定精度は低いが、測定日前日までの積算日平均気温を組み合わせると、推定式の精度は高くなる。 2. 茎数は、NDVIと高い相関関係があり、年次が異なってもNDVIにより40本/m <sup>2</sup> 程度の誤差で推定が可能である。 3. m <sup>2</sup> 当たり粒数はNDVIと高い相関関係があり、高品質生産のための適正粒数であるm <sup>2</sup> 当たり粒数25,000~27,000粒/m <sup>2</sup> (農業研究成果情報No.1098)となるNDVI値は0.897~0.911である。
1124	量表の退色程度は原料いぐさのクロロフィルb含有量と強い負の相関関係がある	アグリシステム総合研究所いぐさ研究室(担当者: 水永美紀)	1. 原料いぐさのクロロフィル類の含有量は、先端部、中央部および根元部のすべての部位で「涼風」で少なく「ひのはるか」で多い品種間差があるが、いずれの品種も先端部、中央部、根元部の順に多い。 2. 量表の退色前と比較した色の変化(色差。以下、退色程度)は、いずれの品種とも根元部、中央部より先端部で小さく推移する。 3. 原料いぐさのクロロフィルb含有量と量表の退色程度との間には負の相関関係がある。退色処理5日間では強い負の相関関係があり、退色処理日数が経つに従い相関係数の値は小さくなる。 4. 原料いぐさの各部位のクロロフィルb含有量と退色程度との関係は、いずれの品種も退色初期ではクロロフィルb含有量が少ない根元部で退色しやすく、クロロフィルb含有量が多い先端部で退色しにくい。
1125	高温条件下で定植するトマト促成長期栽培における夜間冷房の効果	アグリシステム総合研究所野菜栽培研究室(担当者: 猿渡 真)	天井フィルム被覆下で8月に定植するトマト促成長期栽培では、定植から10月上旬までの夜間冷房によって夜間の平均温度を5℃~2℃程度下げた場合、無処理と比較して以下の効果が得られる。 1. 生育初期の8月~9月を中心に径径が太く、葉も大きくなり、草勢が向上する。また、初期の根量が増加するほか、着果率も向上する(表1、葉長・葉幅データ省略)。 2. 開花進捗は同等で、果実成熟日数は最大で5日長くなる(データ省略)。 3. 収穫初期の裂果が大幅に減少し、年内の可販果率が向上するため、可販果数が増加する。また、1果重が大きくなる。 4. 年内の可販果収量が増加し、年明けは同等となる。
1126	冬春どりキャベツを加工・業務用に収穫後6週間以上鮮度保持ができる貯蔵条件	アグリシステム総合研究所野菜栽培研究室(担当者: 古閑詩織)	1. 貯蔵温度0~2℃では、8週間貯蔵後も外観鮮度の低下(外葉の黄化やカビ発生、発根等)がみられず、鮮度保持効果が高い。 2. 貯蔵温度5℃では、外観鮮度の低下が著しいものの、資材を利用することで、6週間貯蔵後も外観鮮度を保持できる。 3. 資材を利用することで、8週間貯蔵後の一玉重の減少も1%程度に抑えることができる。
1127	早生品種ク「丹沢」は高温少雨の気象条件下で健全果率が低下する	球磨農業研究所(担当者: 鶴岡奈緒) 果樹研究所落葉果樹研究室(担当者: 古田和秀)	1. 2024年夏季の気象は、平年に比べ気温が高く無降雨日が多い。特に、最高気温が35℃を超える猛暑日がこれまでで最も多く、球磨農業研究所(アメダス熊本県上)で41日、果樹研究所(アメダス熊本県甲佐)で53日である。 2. 2024年産「丹沢」の健全果率は、球磨農業研究所で36%、果樹研究所で17%と過去に前例がないほど非常に低く、不良果に占める未熟果(シワ果)の割合が高い。 3. 2024年産「筑波」の健全化率は、球磨農業研究所で56%、果樹研究所で63%、「美玖里」の健全化率は球磨農業研究所で49%、果樹研究所で73%であった。

(2) 令和6年度(2024年度)農業研究成果情報一覧表

No	研究名	担当研究所・室名、担当者名	研究成果情報
1128	令和6年台風10号によるクリの落穂実態	球磨農業研究所(担当者:鶴岡奈緒)	台風襲来時、「丹沢」は収穫盛期過ぎ、「ぼろたん」「杉光」は収穫盛期前、「筑波」「利平栗」「美玖里」は収穫開始の1週間以上前であった。 1. 「筑波」では、毎年せん定を行っている樹の樹高は3.9mで落穂率が4%であったのに対し、せん定を実施していない無せん定樹では樹高が6.4mと高く13%落穂し、毎年せん定を行っている樹の落穂率が低い。 2. 落穂率は収穫期の早生品種で多いが、落穂した樹のうち収穫可能なものを除いた減収率は、「丹沢」8%、「ぼろたん」21%、「杉光」12%、「筑波」4%、「利平栗」10%、「美玖里」11%となり、「ぼろたん」以外の品種では実質の被害に大きな差はなかった。
1129	高温傾向の気象がカンキツ類(温州ミカン、「肥の豊」)の生育に及ぼす影響	果樹研究所常緑果樹研究室(担当者:津田尚明)	1. 過去18年間(2006年~2023年)を2006年~2014年(以下、「06-14」と)と2015年~2023年(以下、「15-23」と)に区分すると、「15-23」の年平均気温は「06-14」と比較して、0.5℃高くなり、月別では4月、3月、1月、5月、11月の順で平均気温が高い。 2. 3月~4月の気温が高いことで、「15-23」の発芽日は0~3日、満開日はそれぞれ5日早くなり、発芽から満開までの日数は2~5日短くなっている。 3. 9月の最低気温が0.7℃上昇したことで、成熟期の早い「豊福早生」の1分着色は2日、6分着色は3日遅延している。 4. 10月以降の最低気温はほとんど差がないため、1分着色は「興津早生」で2日、「青島温州」で5日、「肥の豊」で3日早くなり、8分着色では、それぞれ6日早くなり、1分着色から8分着色までの期間が短くなっている。
1130	P-プラス(結露防止タイプ)で個装した「肥の豊」は予措無しで3月まで貯蔵可能である	果樹研究所常緑果樹研究室(担当者:佐々木 雲海)	1. P-プラス(結露防止タイプ)個装における貯蔵中の果実減量は裸果に比べて小さく、P-プラス個装に比べて大きい。 2. P-プラス(結露防止タイプ)個装は、予措をせずに貯蔵することで、予措を行った場合やP-プラス個装に比べて腐敗果とはん症の発生が少ない。特に、3月まではこはん症の発生が少なく、しなび果の発生は無い。 3. P-プラス(結露防止タイプ)個装した果実の糖度(Brix)は、P-プラス個装に比べて高くなる。 4. 個装内の湿度は、P-プラス(結露防止タイプ)は80%程度であり、P-プラスの100%程度に比べ、低く推移する。
1131	普通温州の浮皮等果皮障害はGP(GA+PDJ)剤とカルシウム剤の散布で発生を軽減できる	果樹研究所常緑果樹研究室(担当者:坂本節)	1. 浮皮は、GP剤とカルシウム剤をそれぞれ単独で散布するよりも組み合わせで散布することで、収穫時から貯蔵後まで発生が少なく、程度も軽い。また、クラッキングの発生も少なくなる。 2. 果実の着色歩合と果皮色は、GP剤の散布により、収穫時はカルシウム剤のみと無処理に比べやや劣るが、1ヶ月半程度の貯蔵後には差はない。また、収穫時にみられた緑斑は、貯蔵後ほとんど消失する(データ略)。 3. 果実品質は、収穫時と貯蔵後ともにGP剤の散布による差はみられない。
1132	ナシ「凜夏(りんか)」のトンネルハウス栽培における特性	果樹研究所落葉果樹研究室(担当者:古田和秀)	1. トンネルハウス栽培「凜夏」は、露地栽培に比べ開花盛期は7日程度早い。収穫盛期は露地栽培よりも10日程度早く、7月下旬となる。 2. トンネルハウス栽培は、1果重が450g程度となり、露地栽培に比べ小さく、糖度もやや低くなる。 3. トンネルハウス栽培は、露地栽培に比べ果形は悪くなる。
1133	ナシ「凜夏(りんか)」の着果程度と収量性	果樹研究所落葉果樹研究室(担当者:古田和秀)	1. 果実肥大は、側枝1mあたり4~6果着果では、着果数の違いによる顕著な差はみられない。 2. 果実階級比率は、側枝1mあたり4~6果着果させると3L以上の割合が80%以上となる。 3. 果実品質は、側枝1mあたり4~6果着果における着果数の違いによる硬度・糖度・果皮色には差が見られない。 4. 推定収量は、側枝1mあたり6果着果が最も多い。 5. 側枝1mあたり5果着果では、予備摘果の有無による果実品質に差がなく、平均1果重が4Lとなる。
1134	ナシ「甘太」はポリエチレン袋で包み5℃で貯蔵することで約90日間鮮度保持できる	果樹研究所落葉果樹研究室(担当者:轟田純子)	1. 5℃の冷蔵庫に、裸果、ポリ個装、コンテナごとポリ袋に包んだ場合(コンテナ装)で貯蔵を行った。貯蔵後90日の果実品質は、ポリ個装(5℃)及びコンテナ装では、収穫時の1果重、地色、糖度が比較的維持されるのに対し、裸果では1果重が大幅に減少し、地色、糖度が上昇する。 2. 収穫時からの果実減量率は、裸果では貯蔵後90日で18%を超えたのに対し、ポリ個装やコンテナ装では、ほぼ減量がみられない。また、果実のしなびの発生は、貯蔵後90日では、ポリ個装及びコンテナ装ではほとんど見られないが、裸果で90%以上発生が見られる。 3. 果実の食味調査では、ポリ個装(5℃)は食感、食味で、コンテナ装は食感で裸果に比べて優れる。なお、ポリエチレン袋で包んだ貯蔵果実が収穫時果実と比べて食味は遜色ない。 4. 冷蔵貯蔵後に1週間常温貯蔵したところ、果実品質は、ポリ個装(5℃)及びコンテナ装で裸果、ポリ個装(10℃)よりも地色が維持され、外観が優れる。また、果実の食味調査では常温貯蔵前と同様にポリエチレン袋で包んだ果実で裸果よりも評価が高い。
1135	カンキツ緑かび病に対するイミノクタジナルベシル酸塩水和剤の防除効果	果樹研究所病虫化学研究室(担当者:中村桂介)	1. カンキツ緑かび病に対して、ベルコートフロアブルはMBC殺菌剤と混用散布することで、ペフラン液剤25とMBC殺菌剤の混用散布と同等の防除効果がある。 2. ベルコートフロアブルの希釈倍数は、1,000倍と2,000倍で防除効果に大きな差はない。 3. カンキツ貯蔵病害の防除において、ベルコートフロアブルはペフラン液剤25の代替薬剤として活用できる。
1136	アボカドの無加温ハウスにおける根域制限栽培では「ペーコン」の生育と収量が優れる	天草農業研究所(担当者:川端義実)	1. 無加温ハウス栽培のアボカドで11~4月まで天井ビニルを被覆すると、1月下旬頃から出蕾し、開花期間は3月下旬~5月上旬頃となり、収穫期は10~12月となる。 2. 開花型Bタイプの「ペーコン」は、他の品種に比べて樹冠容積が安定して拡大し、着果しやすく収量は多い。 3. 「ペーコン」の混植に用いる開花型Aタイプの品種では、「メキシココーラ」の耐寒性が「ハス」よりも強く、樹冠容積は大きく、収量も多い。 4. 「メキシココーラ」の収穫期は10月上旬で、「ペーコン」の収穫期は10月下旬~11月上旬となる。「ペーコン」においては、収穫期になると果実に亀裂が生じやすい。

※研究成果の図や表等の具体的なデータについては、県のホームページに掲載しています。

## 4 広報

### (1) マスメディアを活用した広報

取材等 日時	関係 研究所	内容（見出し）	取材者	報道資料 提供の方法
令和6年（2024年） 4月10日	果樹	農業研究成果情報No. 1042【ブドウ「巨峰」はアブジン酸液剤を果房散布することで着色が向上する】について	日本農業新聞九州支所	電話取材対応
令和6年（2024年） 4月12日	生産環境	本県の主要野菜における病害虫の発生動向と対策に関する取材について	国際農業社	電話取材対応
令和6年（2024年） 4月19日	生産環境	麦類赤かび病の注意報について	熊本日日新聞	電話取材対応
令和6年（2024年） 4月23日	生産環境	麦類赤かび病の注意報について	令和6年度（2024年度）「農業の新しい技術」ポスター版	電話取材対応
令和6年（2024年） 4月24日	生産環境	キュウリ・ナス病害の注意報について	熊本日日新聞	電話取材対応
令和6年（2024年） 4月24日	生産環境	キュウリ・ナス病害の注意報について	日本農業新聞	電話取材対応
令和6年（2024年） 5月2日	生産環境	果樹カメムシ類の注意報について	熊本日日新聞	電話取材対応
令和6年（2024年） 5月9日	生産環境	果樹カメムシ類の注意報について	TBS	電話取材対応
令和6年（2024年） 5月9日	生産環境	果樹カメムシ類の注意報について	TKU	電話取材対応
令和6年（2024年） 5月9日	生産環境	果樹カメムシ類の注意報について	RKK	直接取材対応
令和6年（2024年） 5月10日	生産環境	果樹カメムシ類の注意報について	NHK熊本支局	電話取材対応
令和6年（2024年） 5月13日	生産環境	果樹カメムシ類の注意報について	KAB	直接取材対応
令和6年（2024年） 5月13日	果樹	果樹カメムシ類の注意報について	KAB	直接取材対応
令和6年（2024年） 5月14日	生産環境	果樹カメムシ類の注意報について	NHK熊本放送局	電話取材対応
令和6年（2024年） 5月15日	アグリ	いぐさに関する取材について	西日本新聞	電話取材対応
令和6年（2024年） 5月17日	草研	草地畜産研究所における牧草収穫作業開始について	NHK、KAB、熊本日日新聞	直接取材対応
令和6年（2024年） 5月21日	アグリ	熊本い草工芸展開会式に関する取材	NHK、RKK、熊本日日新聞	直接取材対応
令和6年（2024年） 5月22日	生産環境	果樹カメムシ類の注意報について	テレビ大阪	電話取材対応
令和6年（2024年） 5月24日	生産環境	果樹カメムシ類の注意報について	NHK（本部）	電話取材対応
令和6年（2024年） 5月29日	生産環境	果樹カメムシ類の注意報について	熊本日日新聞	電話取材対応
令和6年（2024年） 5月31日	生産環境	チャノミドリヒメヨコバイの注意報について	日本農業新聞	電話取材対応
令和6年（2024年） 6月25日	生産環境	斑点米カメムシ類の注意報について	TKU	電話取材対応
令和6年（2024年） 6月25日	生産環境	斑点米カメムシ類の注意報について	日本農業新聞	電話取材対応
令和6年（2024年） 6月26日	生産環境	斑点米カメムシ類の注意報について	KKT	電話取材対応
令和6年（2024年） 7月4日	生産環境	斑点米カメムシ類の注意報について	NHK	電話取材対応
令和6年（2024年） 7月4日	生産環境	トマトキバガの画像提供について	TBS	電話取材対応
令和6年（2024年） 7月26日	生産環境	果樹カメムシ類の注意報について	熊本日日新聞	電話取材対応
令和6年（2024年） 7月26日	農産園芸	ヒゴムラサキ2号に関する取材について	熊本日日新聞	電話取材対応

取材等 日時	関係 研究所	内容（見出し）	取材者	報道資料 提供の方法
令和6年（2024年） 8月9日	農産園芸	令和6年度農産園芸研究所、生産環境研究所 及びアグリシステム総合研究所 合同成果発表会に関する取材について	日本農業新聞	電話取材対応
令和6年（2024年） 8月21日	農産園芸	米の品種に関する取材について	RKK	直接取材対応
令和6年（2024年） 9月18日	畜産	熊本県で開発した新技術（種雄牛「美津福 久」「第一弦球」「菊波泉ET」）について	日本農業新聞	直接取材対応
令和6年（2024年） 10月2日	生産環境	チョウ目害虫の注意報について	日本農業新聞	電話取材対応
令和6年（2024年） 10月3日	生産環境	チョウ目害虫の注意報について	NHK	電話取材対応
令和6年（2024年） 11月7日	果樹	カキ「太秋」に関する取材	NHK	電話取材対応
令和6年（2024年） 11月12日	生産環境	ハスモンヨトウ・オオタバコガの警報につい て	日本農業新聞	電話取材対応
令和6年（2024年） 11月13日	生産環境	ハスモンヨトウ・オオタバコガの警報につい て	JA com農協新聞	電話取材対応
令和6年（2024年） 11月14日	生産環境	ハスモンヨトウ・オオタバコガの警報につい て	人吉新聞	電話取材対応
令和6年（2024年） 12月10日	畜産	天草大王に関する取材について	熊本日日新聞	電話取材対応
令和7年（2025年） 1月15日	企画	国会中央食堂の人気メニュー（天草大王使用 のカレー）に関する取材について	週刊女性PRIME	電話取材対応
令和7年（2025年） 3月3日	生産環境	トマト黄化葉巻病の注意報について	熊本日日新聞	電話取材対応
令和7年（2025年） 3月3日	生産環境	トマト黄化葉巻病の注意報について	日本農業新聞	電話取材対応
令和7年（2025年） 3月13日	果樹	不知火導入時に苦心した点について（公益財 団法人農林水産・食品産技術振興会サイト続 日本の「農」を開いた先人たち（53）かんき つ類の救世主「デコボン」を育てた不知火農 協「農業共済新聞」2003年12月2週号 （2003）の記事からの質問）	NHK	電話取材対応
令和7年（2025年） 3月24日	農産園芸	高温における米生産への影響について	熊本日日新聞	電話取材対応
令和7年（2025年） 3月28日	生産環境	チュウゴクアミガサハゴロモの特殊報につい て	TKU	電話取材対応
令和7年（2025年） 3月28日	生産環境	チュウゴクアミガサハゴロモの特殊報につい て	日本農業新聞	電話取材対応

(2) ホームページの活用（運用）

農業研究センターホームページを通じて、研究成果やトピックスなどを広く県民に提供した。

ホームページに掲載された記事一覧

日付	項目名
令和6年（2024年） 6月6日	農業研究センター広報誌「農研NOW（なう）」 NO. 45
令和6年（2024年） 6月28日	農業研究センターの研究成果（成果の公表）
令和6年（2024年） 7月19日	令和6年度（2024年度）「農業の新しい技術」ポスター版
令和6年（2024年） 7月30日	熊本県フードパレーアグリビジネスセンターソーシャルメディアサービス運用方針
令和6年（2024年） 8月28日	畜産研究所生産基礎技術研究室
令和6年（2024年） 10月7日	令和6年度（2024年度）試験研究課題について（事業計画書）
令和6年（2024年） 10月11日	農業研究センター広報誌「農研NOW（なう）」 NO. 46
令和6年（2024年） 10月23日	令和5年度（2023年度）熊本県農業研究センター年報
令和6年（2024年） 10月31日	熊本県農業研究センター外部評価委員会設置要領
令和6年（2024年） 11月11日	令和6年度（2024年度）HACCP導入支援業務委託の企画提案募集

(3) 主なイベント参加等

日時	場所	名前	内容
令和6年（2024年）10月 23日～10月24日	マリンメッセ福岡B館	九州アグロイノベーション-みどりの食料システムEXP02024	パネルの展示等
令和6年（2024年）9月26日～令和7年（2025年）3月31日	オンライン	農林水産省主催 アグリビジネス創出フェア2024オンラインサイト	パネルデータの掲載
令和6年（2024年）8月 2日～8月16日	熊本県民交流館パレア	パレアロビー展	パネルの展示
令和6年（2024年）11月 9日～11月10日	熊本県農業公園カントリーパーク	2024くまもと農業フェア	パネルの展示、パンフレットの配布、・いぐさ装飾品、天草大王はく製の展示等

(4) 季刊誌（農研NOW）による研究成果の広報

掲載時期	研究所・研究室	タイトル
令和6年（2024年） 6月 No. 45	日本農業新聞	4月上旬からの遮光がトマト黄変果低減と収量確保に有効である
	RKK	無加温栽培ヒリュウ台「肥の豊」では2本主枝にして植栽密度を高めることで単位面積当たりの収量が増加し、労働生産性も向上する
令和6年（2024年） 10月 No. 46	農産園芸研究所 作物研究室	大豆奨励品種「フクユタカ1号」の特性
	畜産研究所 生産基礎技術研究室	黒毛和種種雄牛「美津福久」の選抜 褐毛和種種雄牛「第一弦玉」「菊波泉ET」の選抜

(5) ソーシャルメディアの活用

X (旧Twitter) を活用した情報発信

投稿日	記事名	研究所
令和6年(2024年) 4月24日	春の訪れ❁ 草地畜産研究所が「転牧」をスタート!	草地畜産研究所
令和6年(2024年) 5月1日	夏も近づく八十八夜〜♪ 茶業研究所の茶摘み始めました!	茶業研究所
令和6年(2024年) 5月22日	草地畜産研究所、1番草の刈り取りを始めました!	草地畜産研究所
令和6年(2024年) 6月17日	人工授精による馬の分娩 ~草地畜産研究所~	草地畜産研究所
令和6年(2024年) 9月19日	果樹関係研究成果発表会	果樹研究所
令和6年(2024年) 10月30日	秋の転牧 ~草地畜産研究所~	草地畜産研究所
令和6年(2024年) 11月1日	スマート農業の活用~自動操舵トラクター~	草地畜産研究所
令和6年(2024年) 11月7日	広報紙「農研NOW」No. 46の発行	企画調整部
令和6年(2024年) 11月8日	2024くまもと農業フェア	企画調整部
令和7年(2025年) 3月6日	冬の放牧風景	草地畜産研究所
令和7年(2025年) 3月7日	阿蘇の野焼き	草地畜産研究所